

## IV 調査結果の詳細



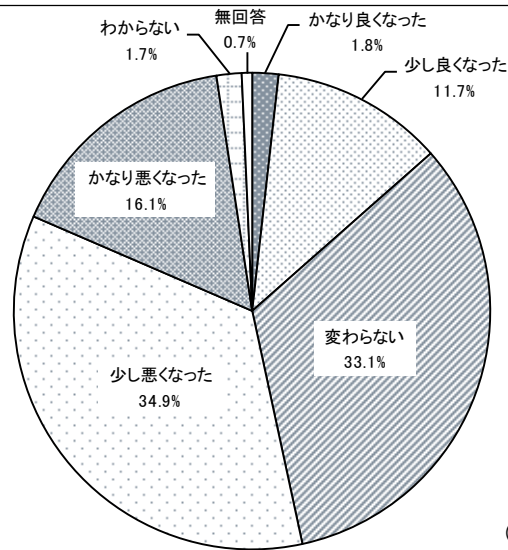
## IV 調査結果の詳細

### 1 暮らしの変化について

#### (1) 暮らしの変化

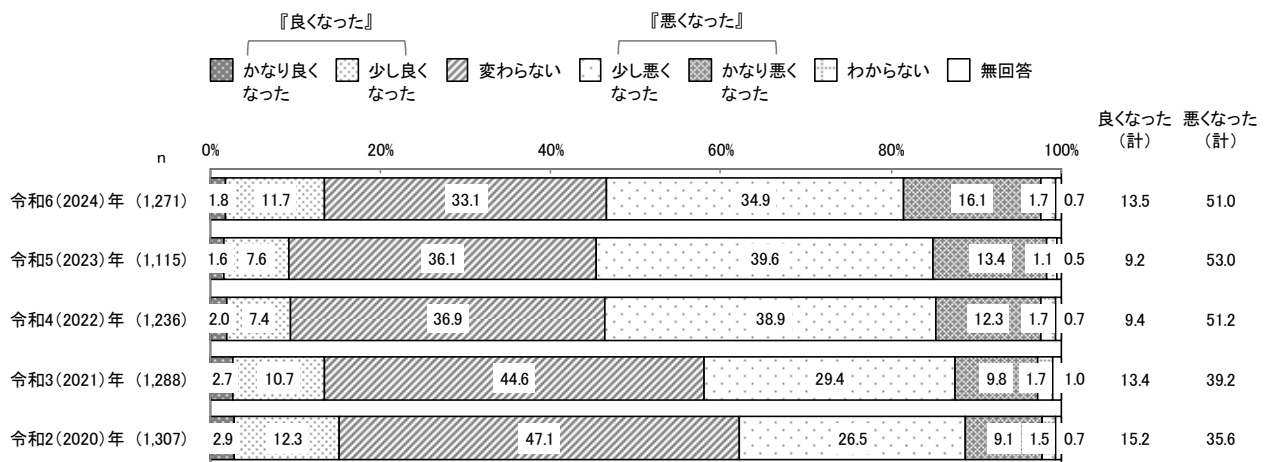
問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 かなり良くなった	1.8%	4 少し悪くなった	34.9%
2 少し良くなった	11.7%	5 かなり悪くなった	16.1%
3 変わらない	33.1%	6 わからない	1.7%
		(無回答)	0.7%



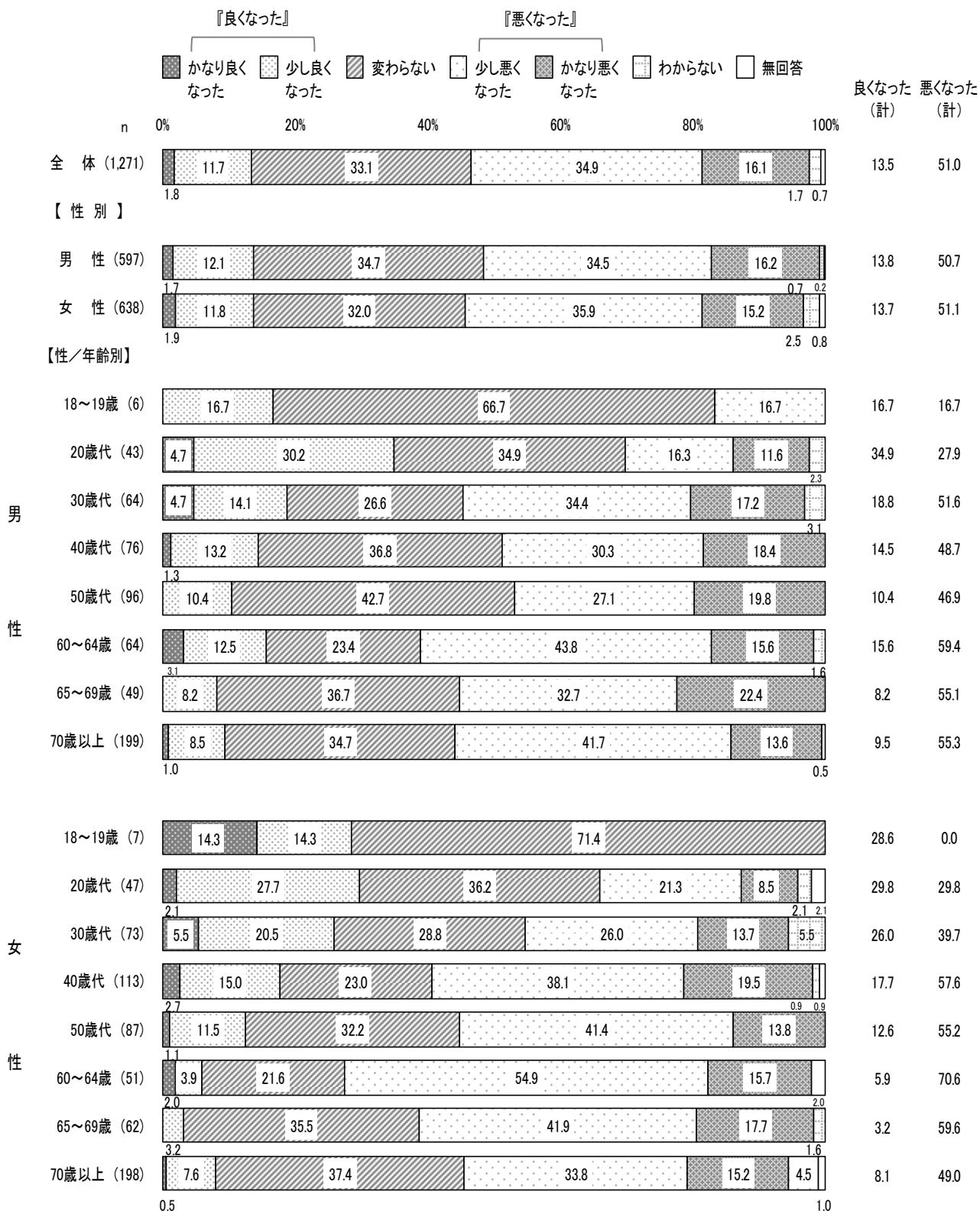
(n=1,271)

全体で見ると、「かなり良くなった」(1.8%)と「少し良くなった」(11.7%)の2つを合わせた『良くなった』(13.5%)が1割台前半となっている。一方、「少し悪くなった」(34.9%)と「かなり悪くなった」(16.1%)の2つを合わせた『悪くなった』(51.0%)が約5割となっている。また、「変わらない」(33.1%)が3割台前半となっている。



過去の調査結果と比較すると、『良くなった』が前回(令和5(2023)年)から4.3ポイント増加している。一方、『悪くなった』が前回(令和5(2023)年)から2.0ポイント減少している。

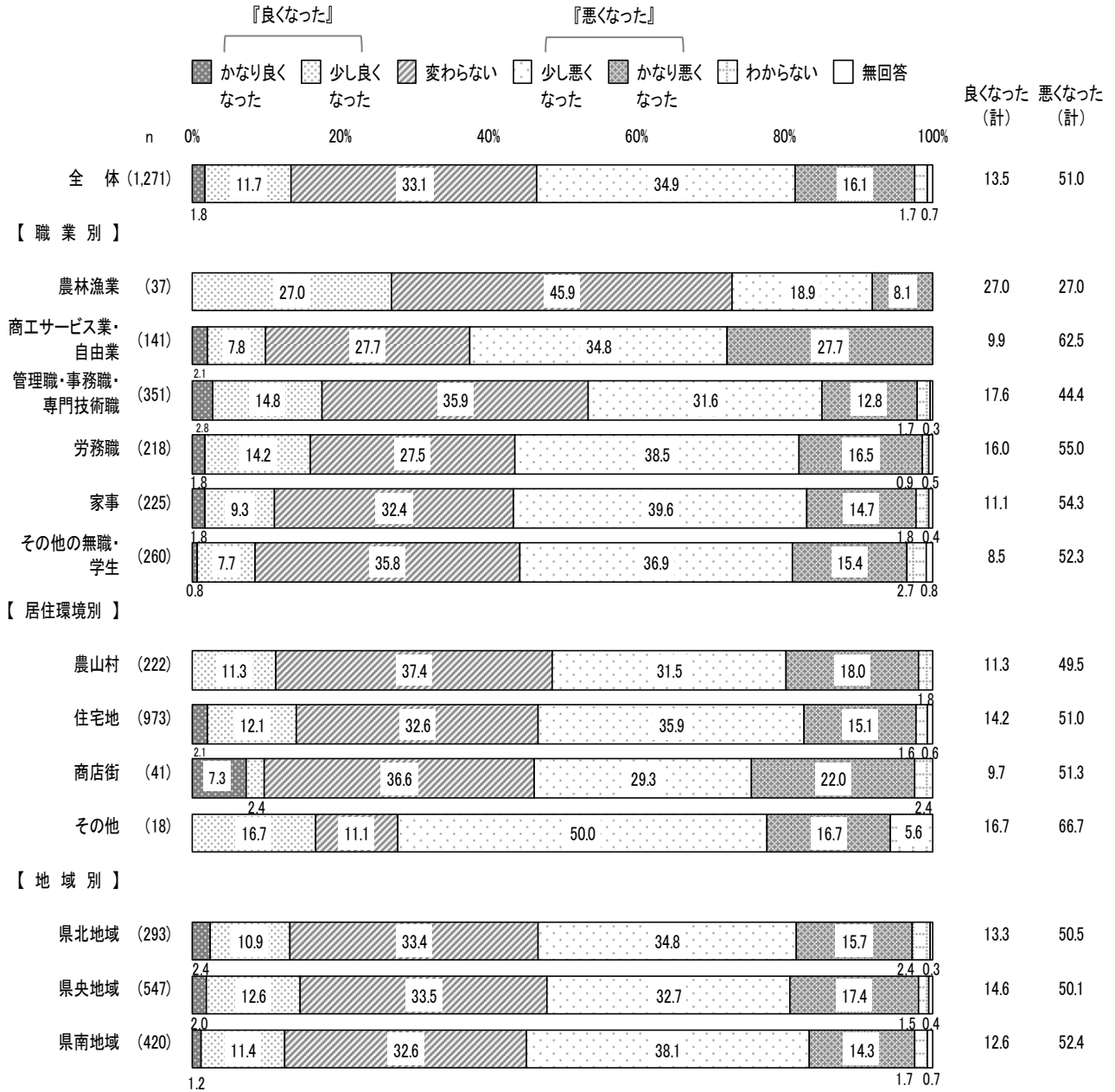
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『良くなった』では〈男性20歳代〉34.9%が最も高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性60~64歳〉70.6%が最も高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別】



職業別で見ると、『良くなった』では〈農林漁業〉27.0%が最も高く、〈その他の無職・学生〉8.5%が最も低くなっている。一方、『悪くなった』では〈商工サービス業・自由業〉62.5%が最も高く、〈農山村〉49.5%が最も低くなっている。

居住環境別で見ると、『良くなった』では〈その他〉16.7%が最も高く、〈商店街〉9.7%が最も低くなっている。一方、『悪くなった』では〈その他〉66.7%が最も高く、〈農山村〉49.5%が最も低くなっている。

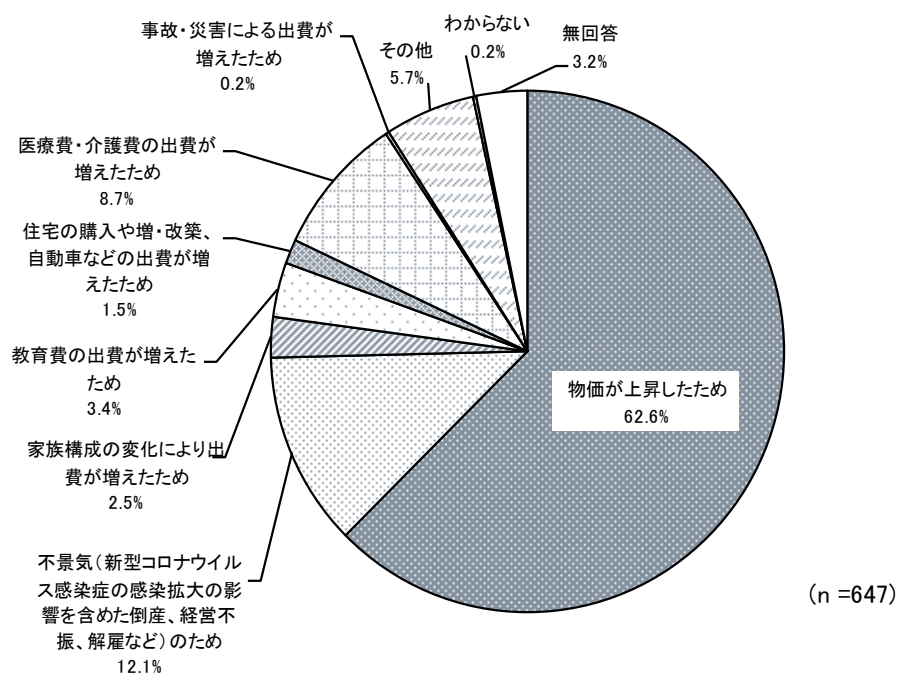
地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

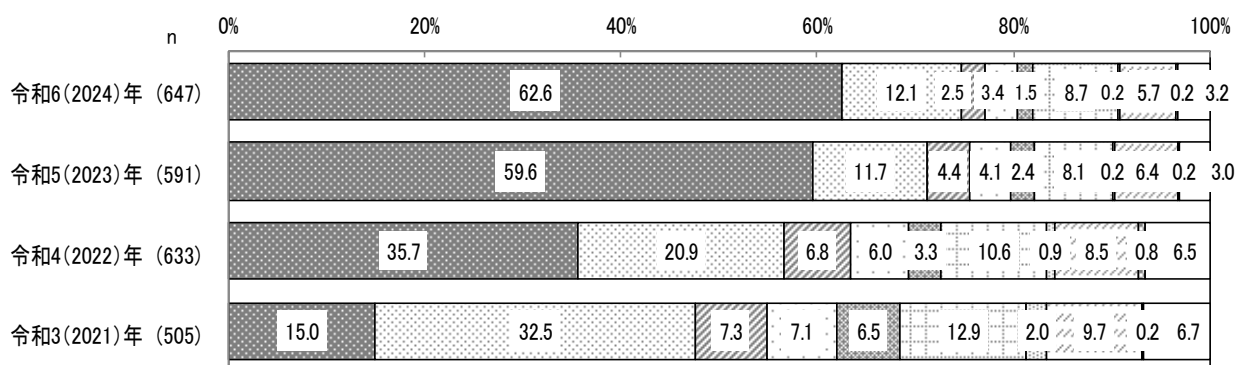
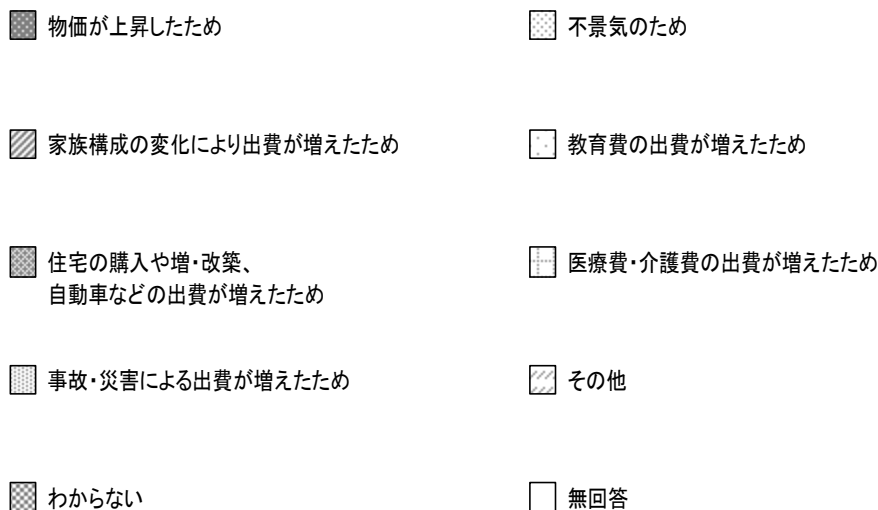
問2 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=647]

1 物価が上昇したため	62.6%
2 不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため	12.1
3 家族構成の変化により出費が増えたため	2.5
4 教育費の出費が増えたため	3.4
5 住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため	1.5
6 医療費・介護費の出費が増えたため	8.7
7 事故・災害による出費が増えたため	0.2
8 その他	5.7
9 わからない (無回答)	0.2 3.2



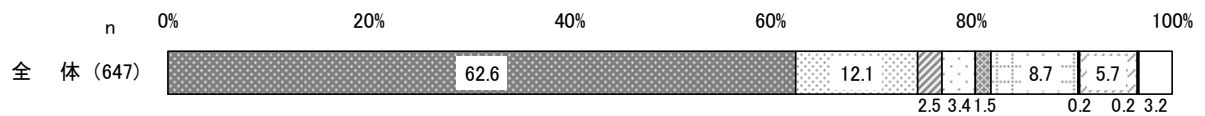
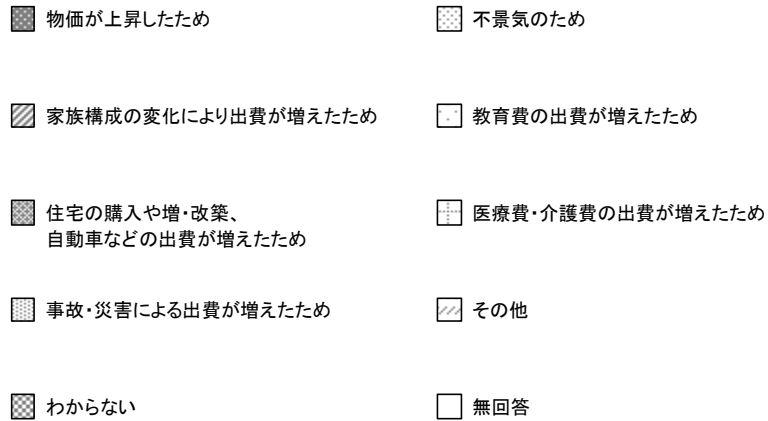
全体で見ると、「物価が上昇したため」(62.6%)が6割台前半で最も高く、次いで「不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため(以下『不景気のため』という。)」(12.1%)、「医療費・介護費の出費が増えたため」(8.7%)の順となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」では前回（令和5（2023）年）から3.0ポイント増加している。『不景気のため』と「医療費・介護費の出費が増えたため」は同程度となっている。

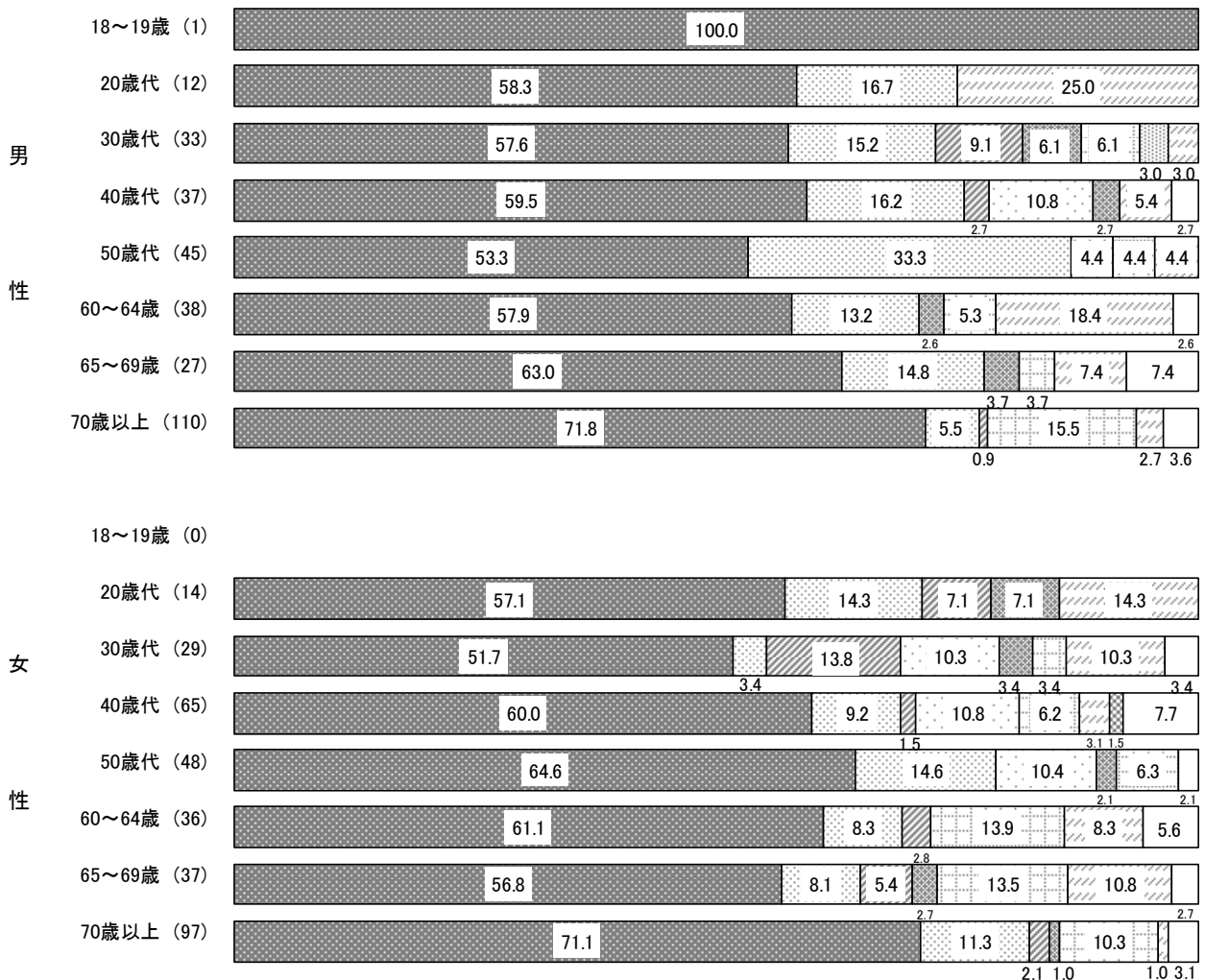
[性別・性／年齢別]



【性別】



【性／年齢別】

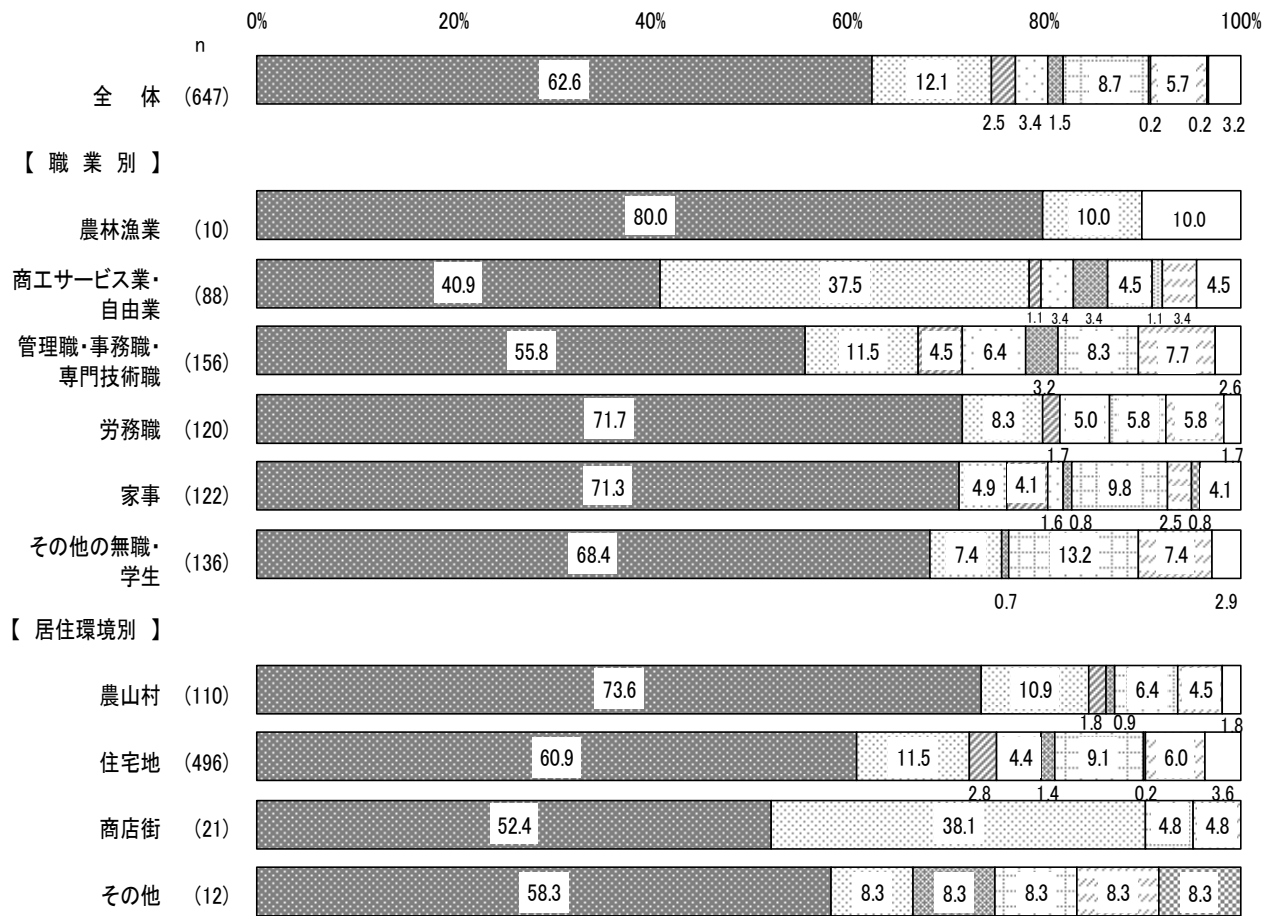
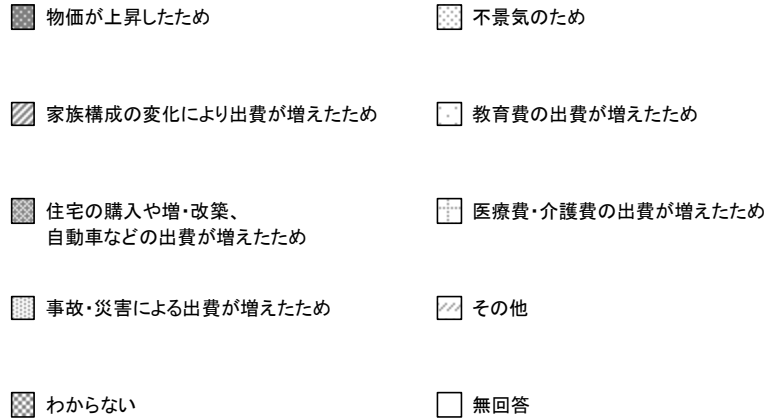




性別で見ると、『不景気のため』では〈男性〉14.2%が、〈女性〉10.1%より4.1ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

性／年齢別で見ると、「物価が上昇したため」では〈男性70歳以上〉と〈女性70歳以上〉がともに7割強と高くなっている。また、「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性70歳以上〉と〈女性60歳以上〉がいずれも1割を超えており、若年層に比べて高くなっている。

[職業別・居住環境別]



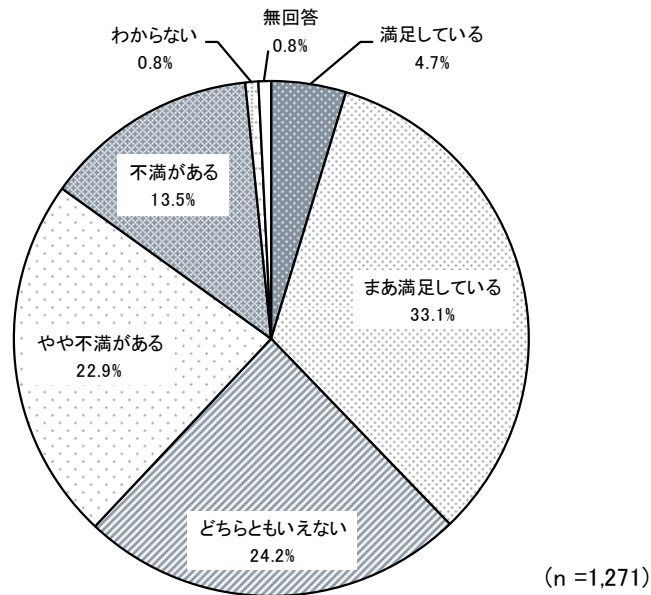
職業別で見ると、「物価が上昇したため」では〈農林漁業〉80.0%が最も高く、〈商工サービス業・自由業〉40.9%が最も低くなっている。『不景気のため』では〈商工サービス業・自由業〉37.5%が最も高く、〈家事〉4.9%が最も低くなっている。

居住環境別で見ると、「物価が上昇したため」では〈農山村〉73.6%が最も高く、〈商店街〉52.4%が最も低くなっている。『不景気のため』では〈商店街〉38.1%が最も高く、〈その他〉8.3%が最も低くなっている。

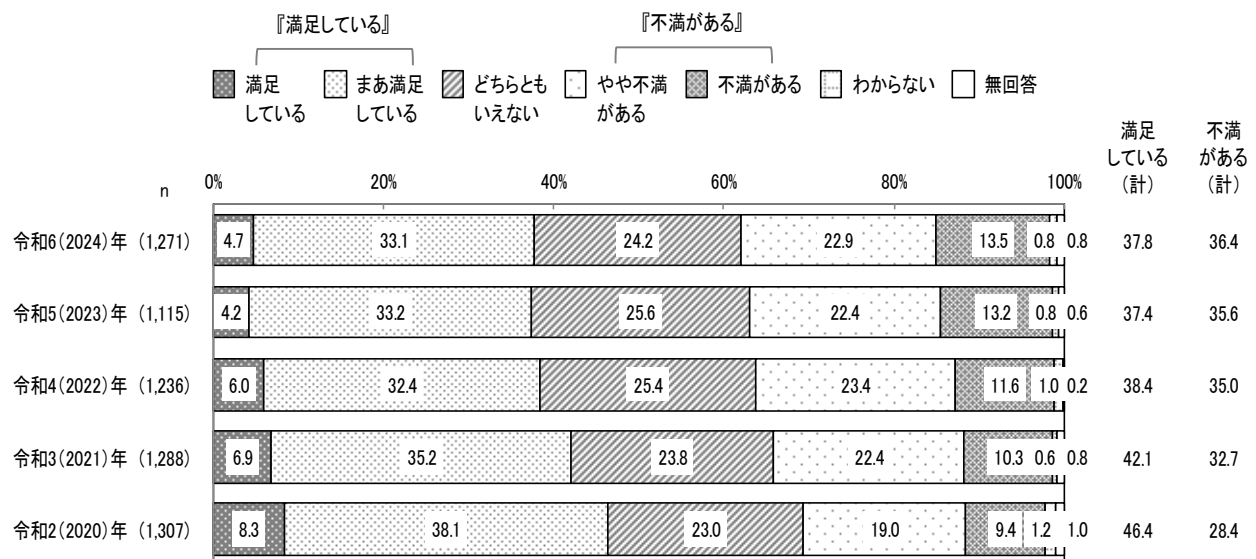
### (3) 暮らしの満足度

問3 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 満足している	4.7%	4 やや不満がある	22.9%
2 まあ満足している	33.1	5 不満がある	13.5
3 どちらともいえない	24.2	6 わからない	0.8
		(無回答)	0.8

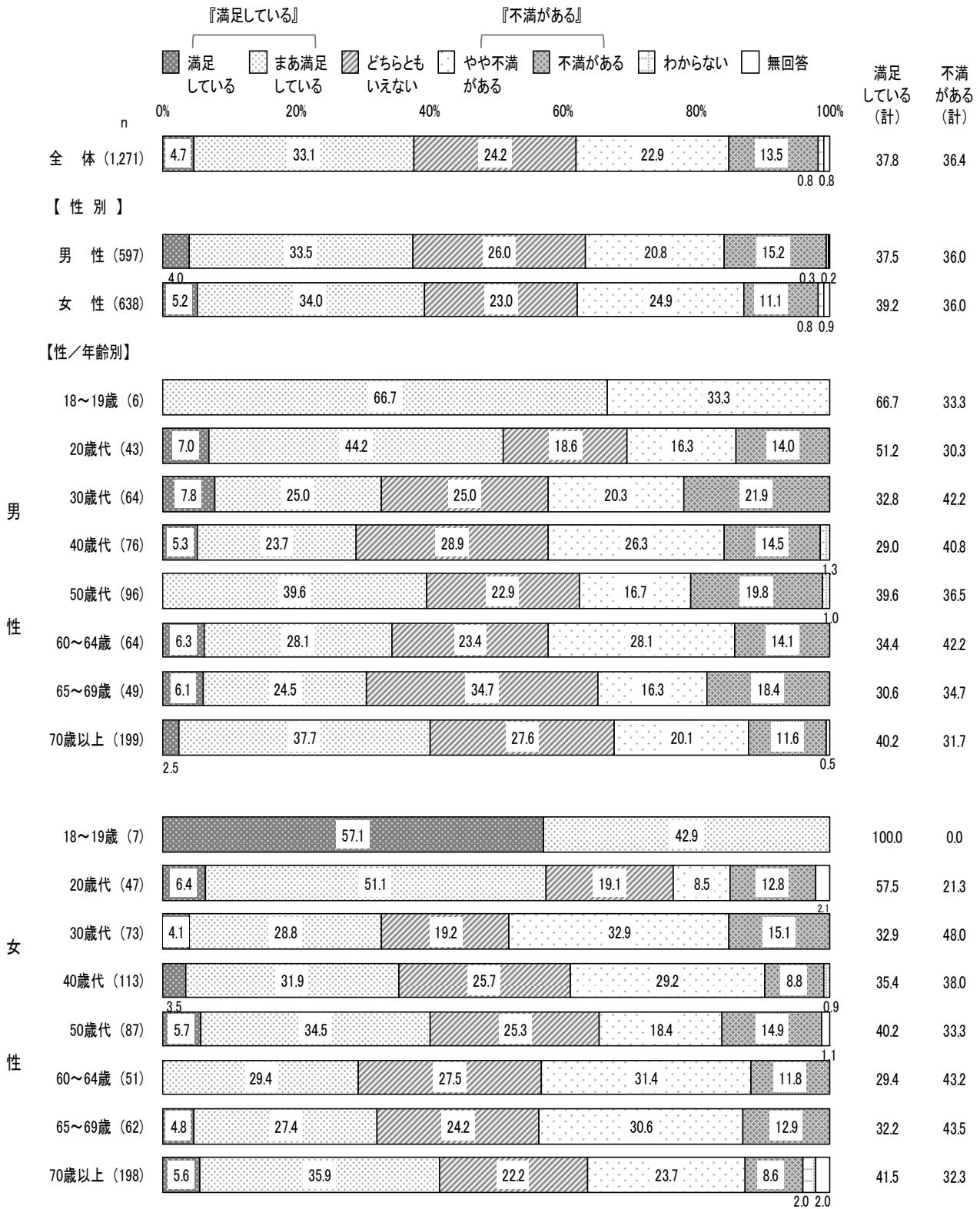


全体でみると、「満足している」(4.7%)と「まあ満足している」(33.1%)の2つを合わせた『満足している』(37.8%)が3割台後半となっている。一方、「やや不満がある」(22.9%)と「不満がある」(13.5%)の2つを合わせた『不満がある』(36.4%)も3割台後半となり、『満足している』と同程度となっている。また、「どちらともいえない」(24.2%)が2割半ばとなっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和5(2023)年)と大きな傾向の違いはみられない。

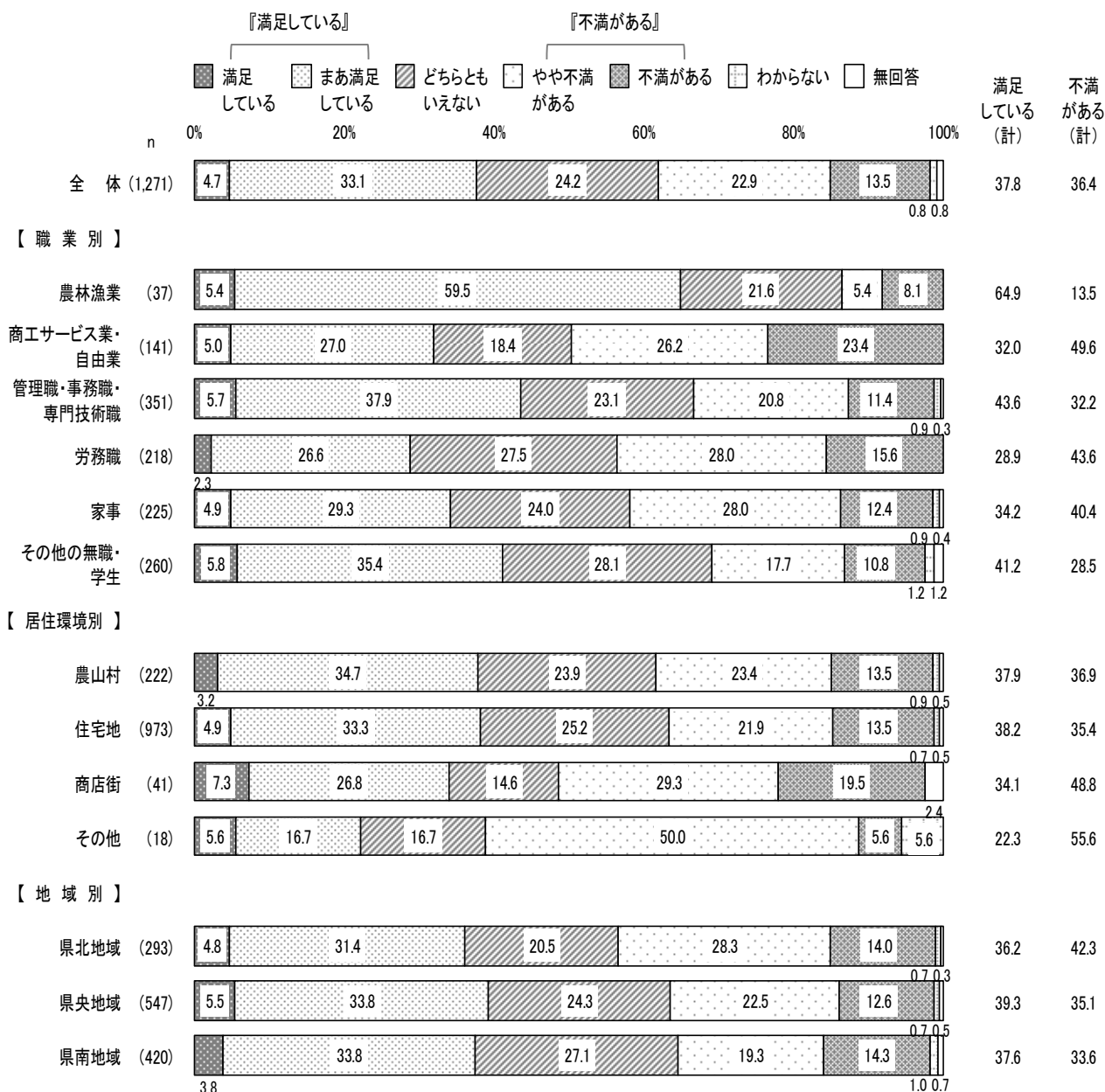
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『満足している』では〈女性〉39.2%が、〈男性〉37.5%より1.7ポイント高くなっている。一方、『不満がある』では男女ともに36.0%と同率となっている。

性／年齢別で見ると、『満足している』では〈女性20歳代〉57.5%が高くなっている。一方、『不満がある』では〈女性30歳代〉48.0%が最も高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別】

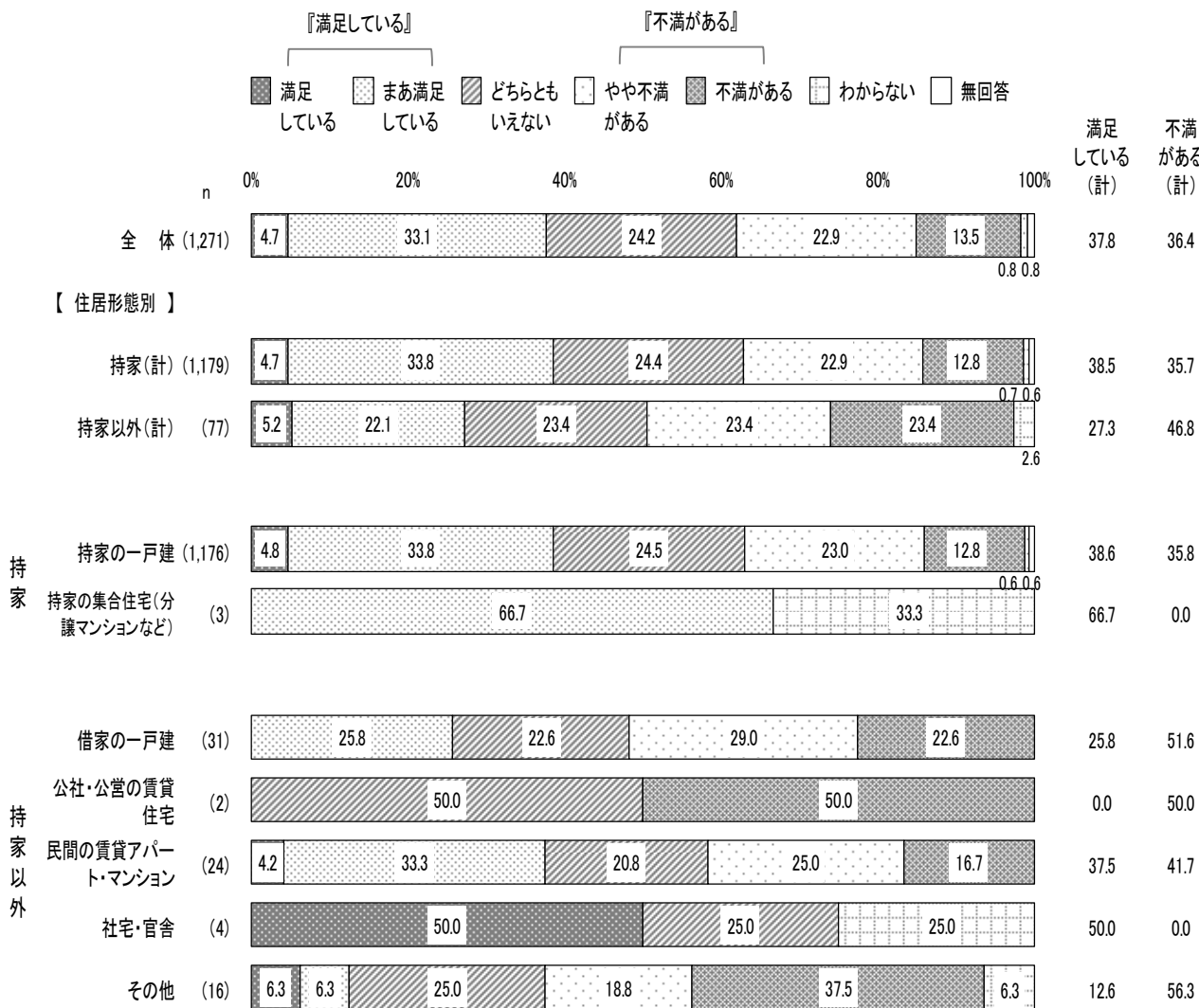


職業別でみると、『満足している』では〈農林漁業〉64.9%が最も高く、〈労務職〉28.9%が最も低くなっている。一方、『不満がある』では〈商工サービス業・自由業〉49.6%が最も高く、〈農林漁業〉13.5%が最も低くなっている。

居住環境別でみると、『満足している』では〈住宅地〉38.2%が最も高く、〈その他〉22.3%が最も低くなっている。一方、『不満がある』では〈その他〉55.6%が最も高く、〈住宅地〉35.4%が最も低くなっている。

地域別でみると、『満足している』ではすべての分類で3割台となっている。一方、『不満がある』では〈県北地域〉42.3%が最も高く、〈県南地域〉33.6%が最も低くなっている。

〔住居形態別〕

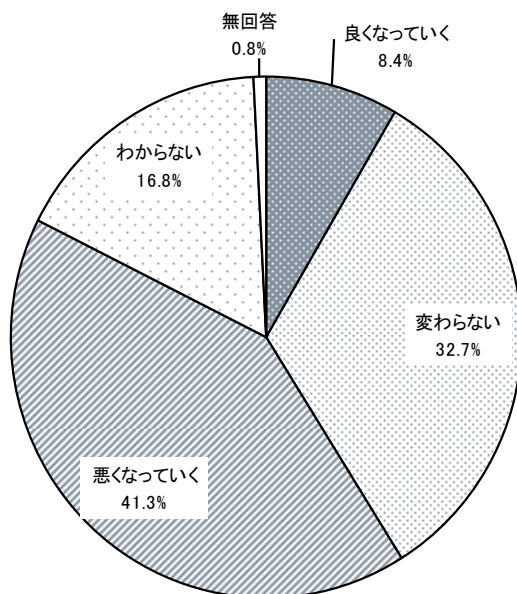


住居形態別でみると、『満足している』では〈持家 (計)〉38.5%が、〈持家以外 (計)〉27.3%より11.2ポイント高くなっている。一方、『不満がある』では〈持家以外 (計)〉46.8%が、〈持家 (計)〉35.7%より11.1ポイント高くなっている。

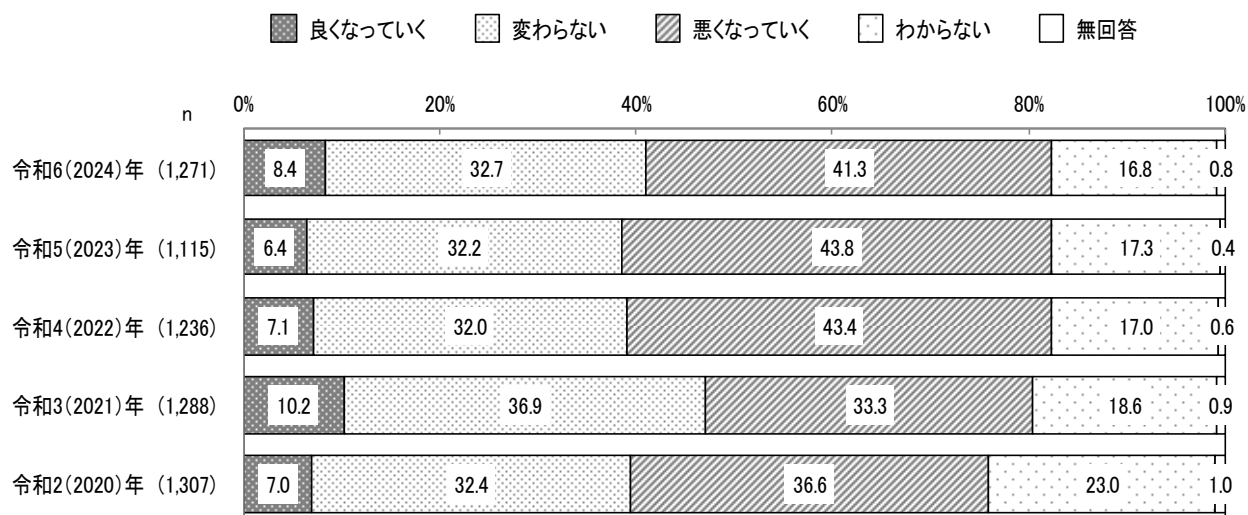
#### (4) 今後の暮らしの状況

問4 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,271]

1 良くなっていく	8.4%	3 悪くなっていく	41.3%
2 変わらない	32.7%	4 わからない	16.8%
		(無回答)	0.8%



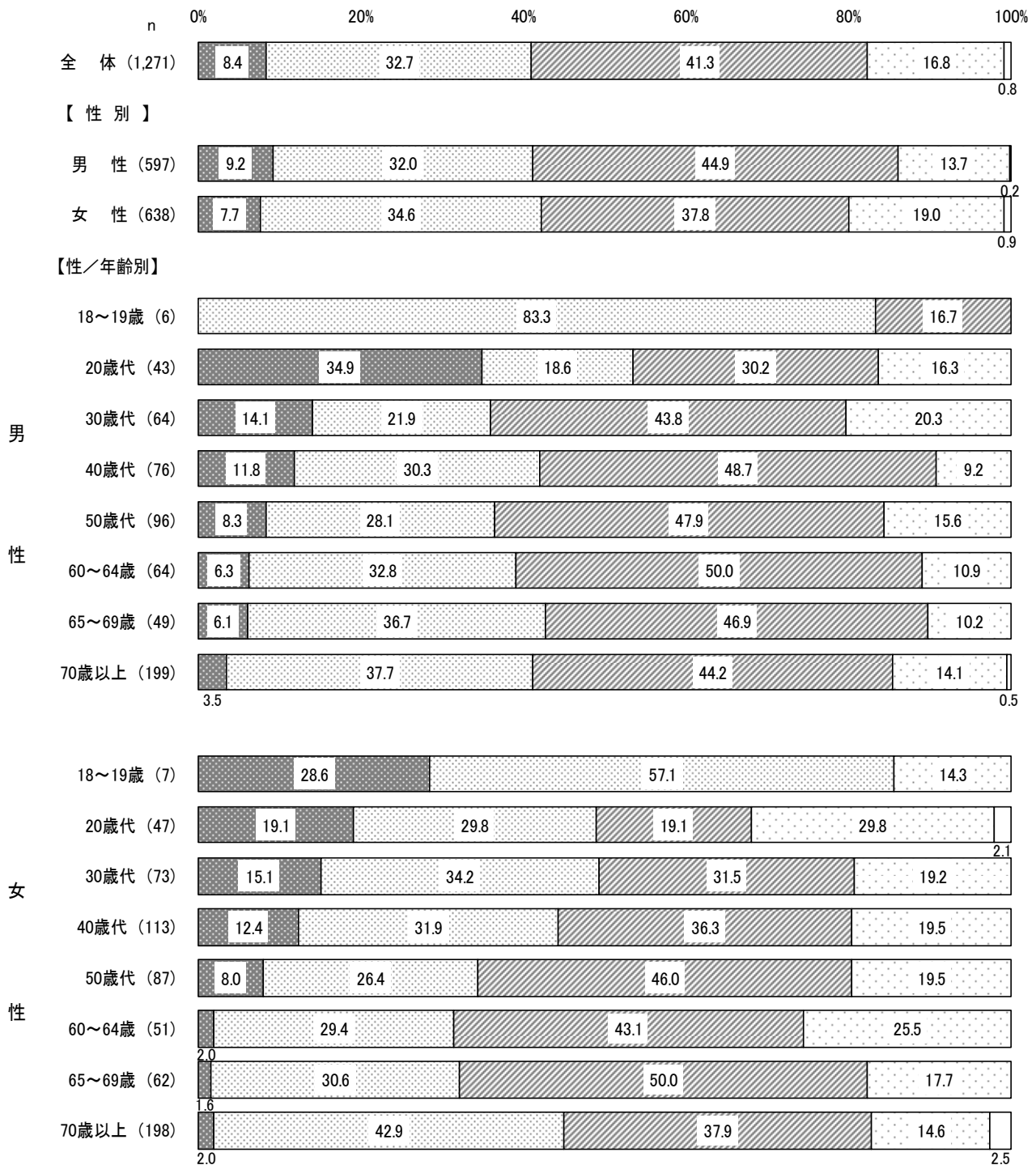
全体で見ると、「悪くなっていく」(41.3%)が4割強と最も高く、次いで「変わらない」(32.7%)、「わからない」(16.8%)、「良くなっていく」(8.4%)の順となっている。



過去の調査結果と比較すると、「良くなっていく」が前回(令和5(2023)年)から2.0ポイント増加している。一方、「悪くなっていく」が前回(令和5(2023)年)から2.5ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

■ 良くなっていく □ 変わらない ▨ 悪くなっていく □ わからない □ 無回答

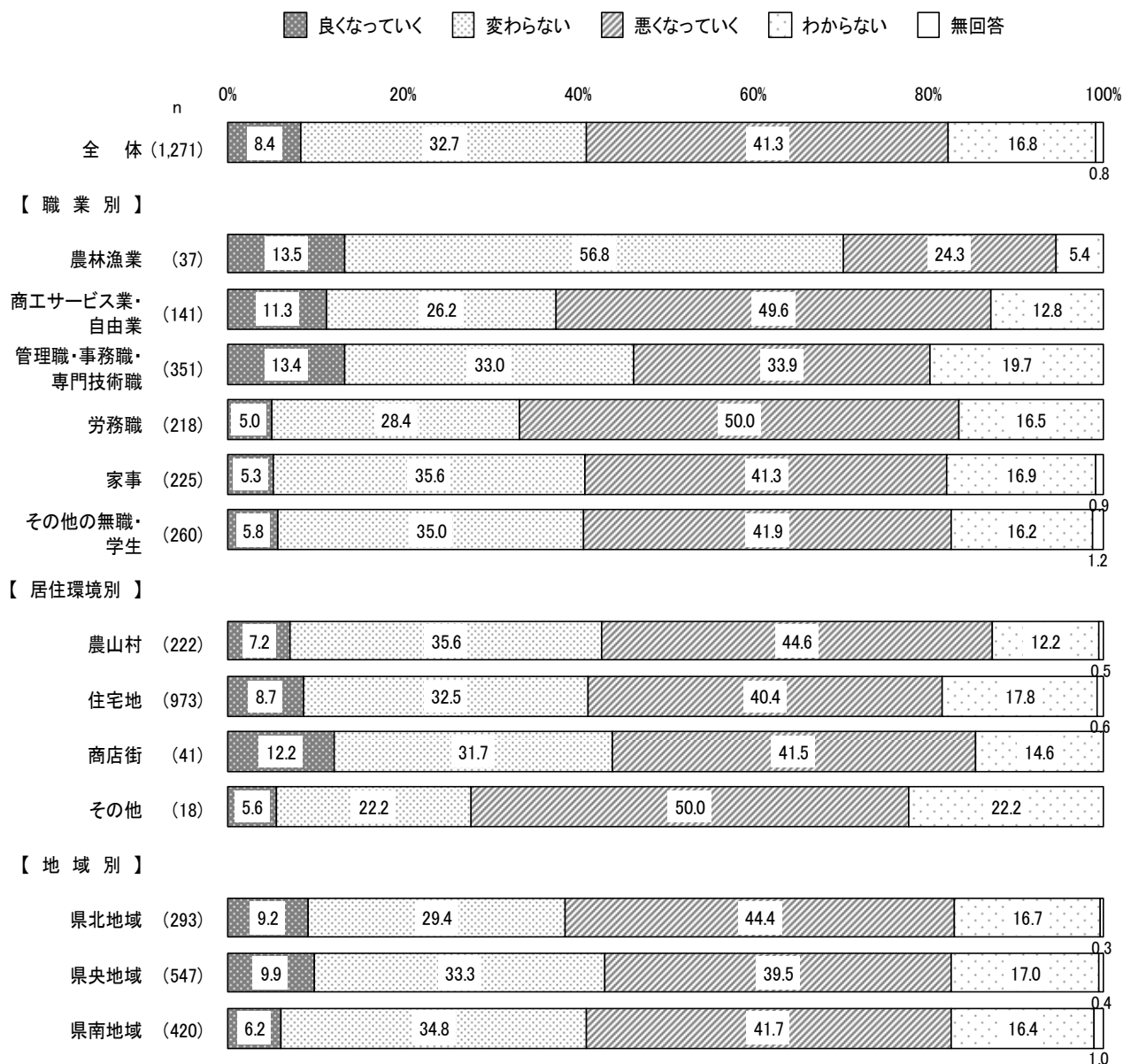


性別でみると、「良くなっていく」では〈男性〉9.2%が、〈女性〉7.7%より1.5ポイント高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性〉44.9%が、〈女性〉37.8%より7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「良くなっていく」では〈男性20歳代〉34.9%が最も高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性60～64歳〉と〈女性65～69歳〉がともに50.0%と最も高くなっている。



[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、「良くなっていく」では〈農林漁業〉と〈管理職・事務職・専門技術職〉がともに約13%と高く、〈労務職〉〈家事〉〈その他の学生・無職〉がいずれも約5%と低くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈労務職〉50.0%が最も高く、〈農林漁業〉24.3%が最も低くなっている。

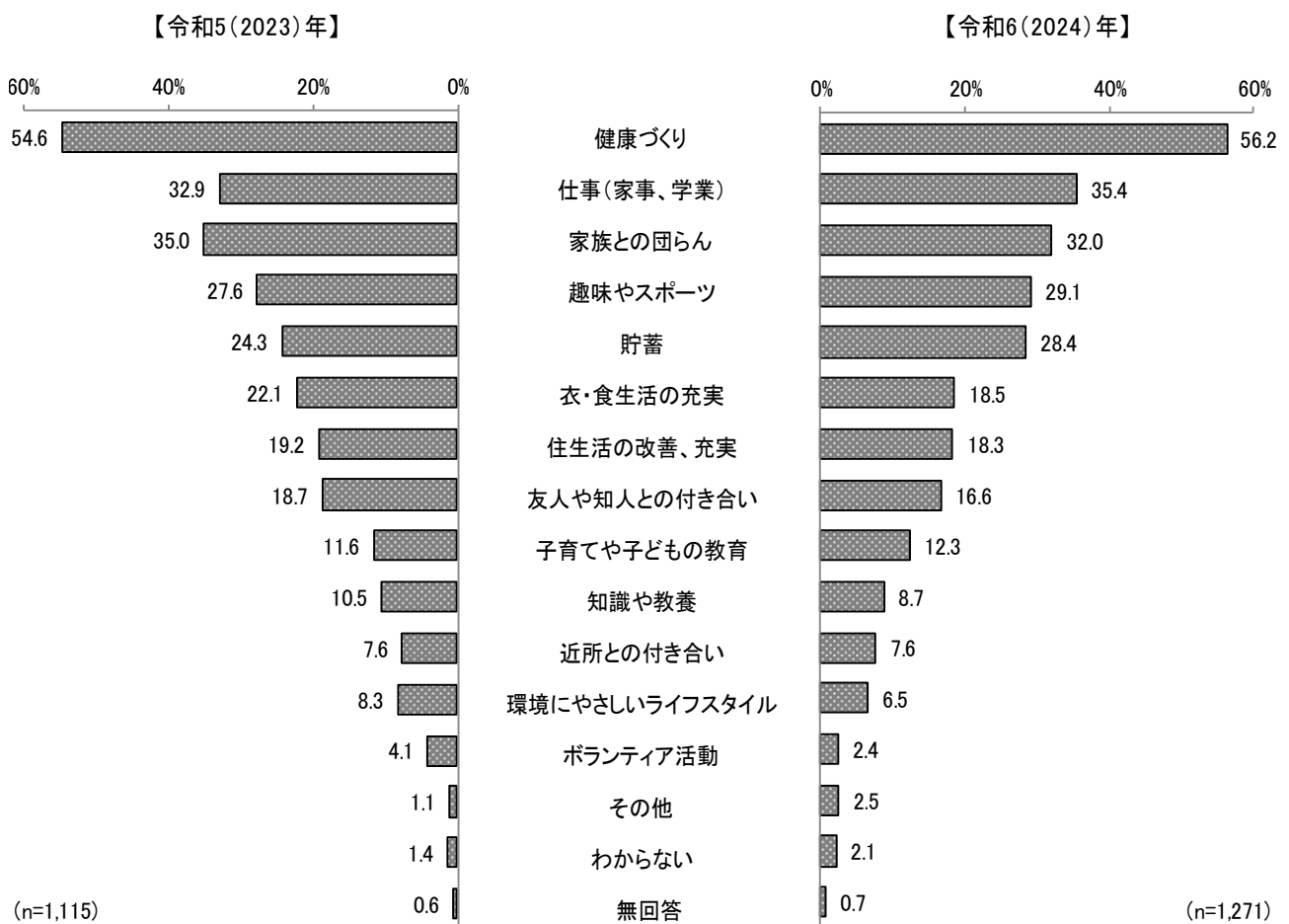
居住環境別で見ると、「良くなっていく」では〈商店街〉12.2%が最も高く、〈その他〉5.6%が最も低くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈その他〉50.0%が最も高く、〈住宅地〉40.4%が最も低くなっている。

地域別で見ると、「良くなっていく」ではすべての分類で1割以下となっている。一方、「悪くなっていく」では〈県北地域〉44.4%が最も高く、〈県央地域〉39.5%が最も低くなっている。

(5) 今後の暮らしで力を入れる点

問5 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,271]

1	仕事(家事、学業)	35.4%	9	家族との団らん	32.0%
2	知識や教養	8.7	10	近所との付き合い	7.6
3	貯蓄	28.4	11	友人や知人との付き合い	16.6
4	趣味やスポーツ	29.1	12	子育てや子どもの教育	12.3
5	ボランティア活動	2.4	13	健康づくり	56.2
6	衣・食生活の充実	18.5	14	その他	2.5
7	住生活の改善、充実	18.3	15	わからない	2.1
8	環境にやさしいライフスタイル	6.5		(無回答)	0.7

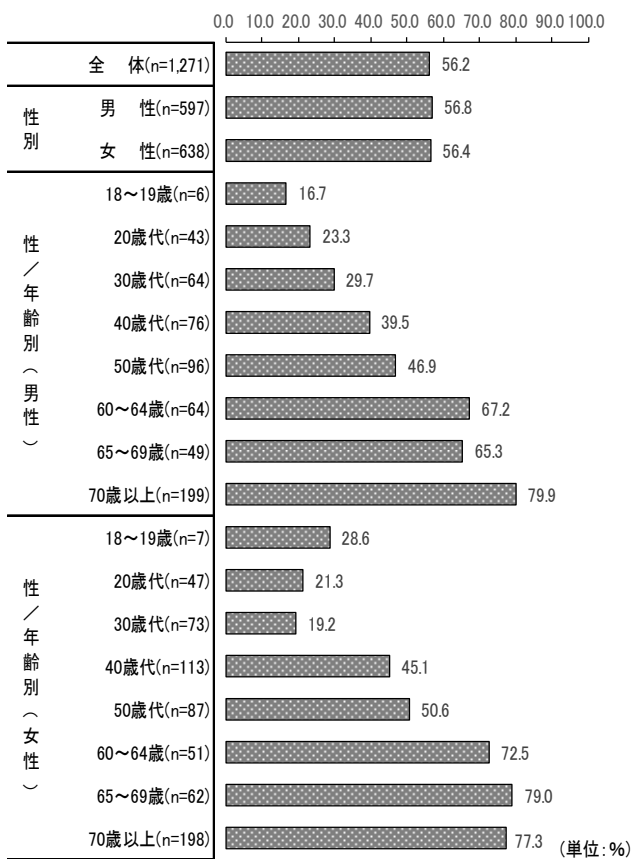


全体で見ると、「健康づくり」(56.2%)が5割台後半と最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(35.4%)、「家族との団らん」(32.0%)、「趣味やスポーツ」(29.1%)の順となっている。

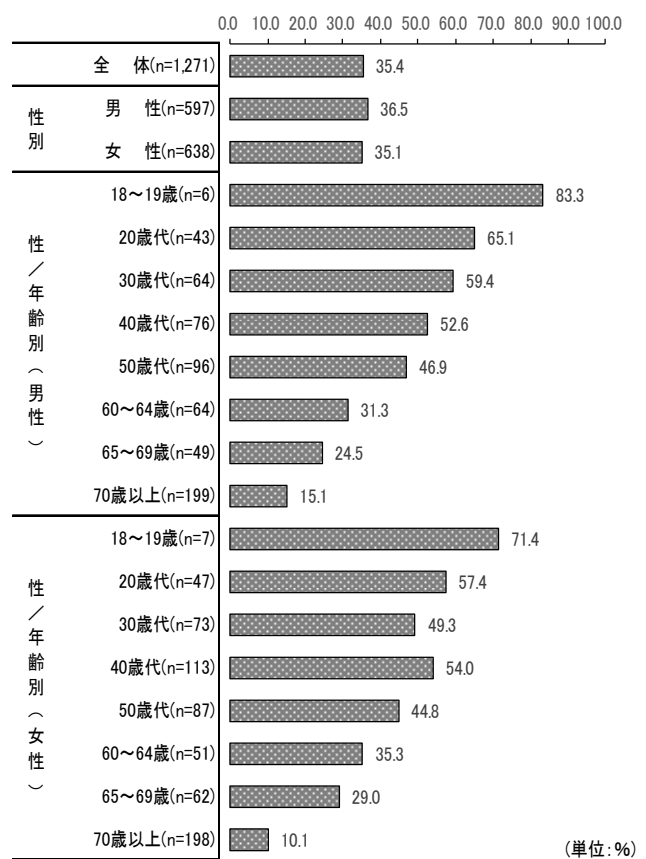
前回(令和5(2023)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられないが、「仕事(家事、学業)」が2.5ポイント増加している。一方、「家族との団らん」が3.0ポイント減少している。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

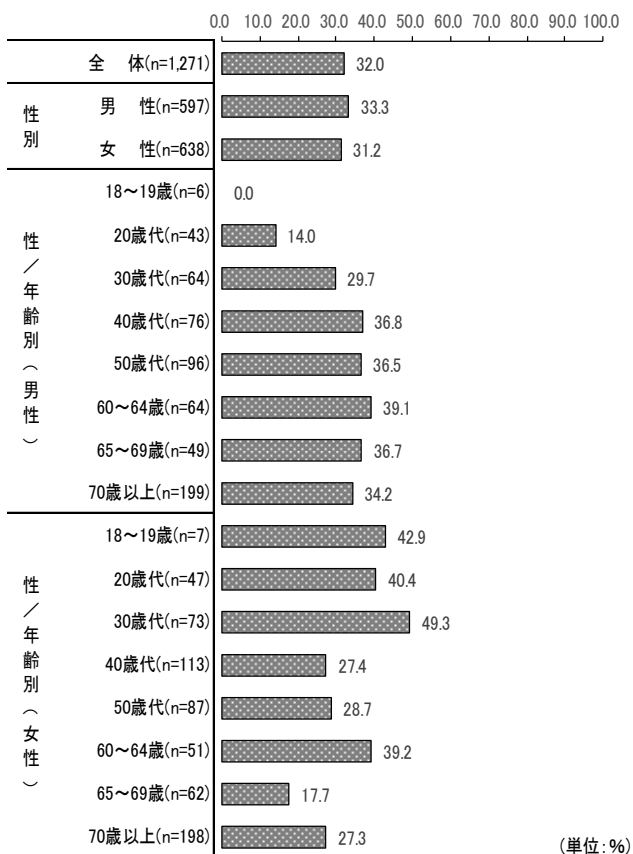
健康づくり



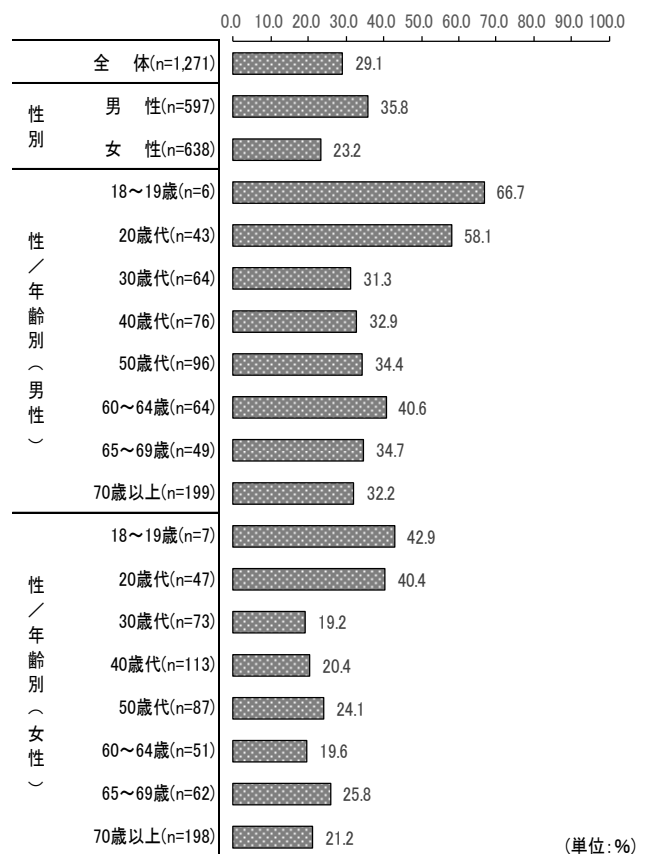
仕事(家事、学業)



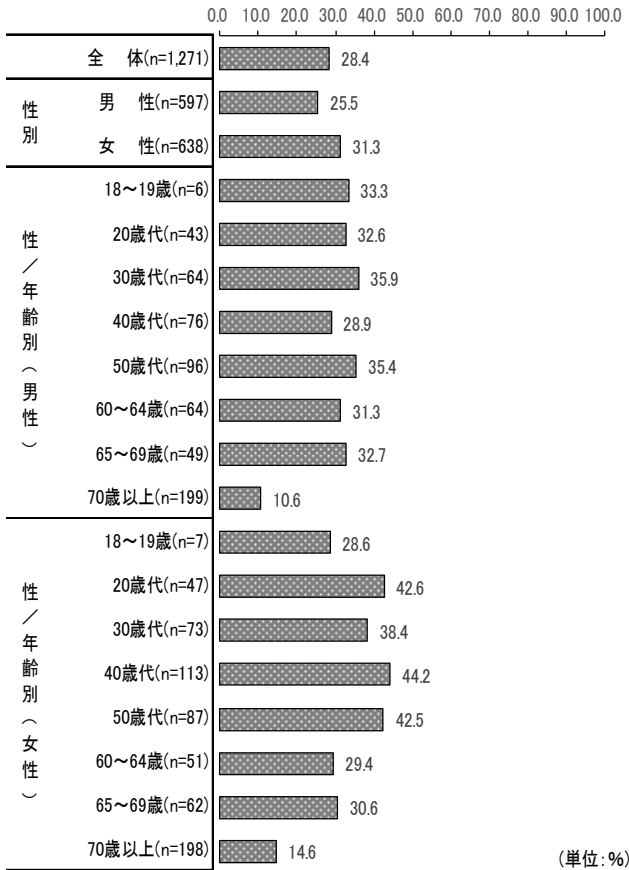
家族との団らん



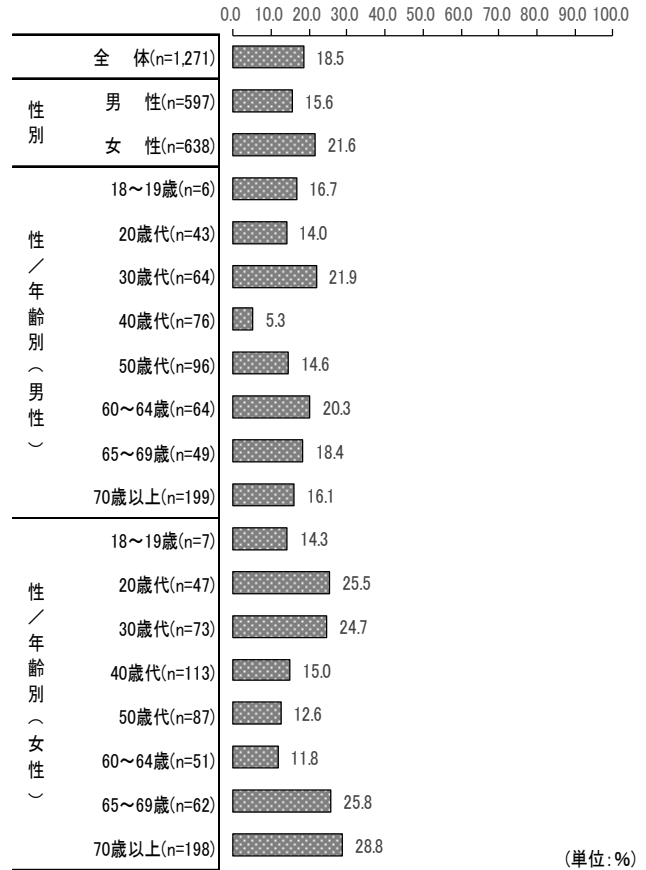
趣味やスポーツ



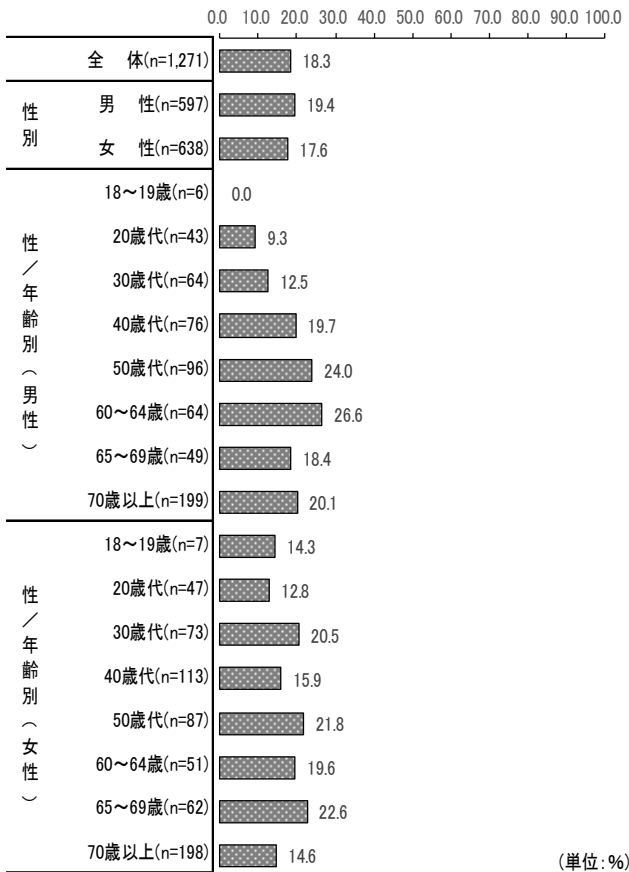
貯蓄



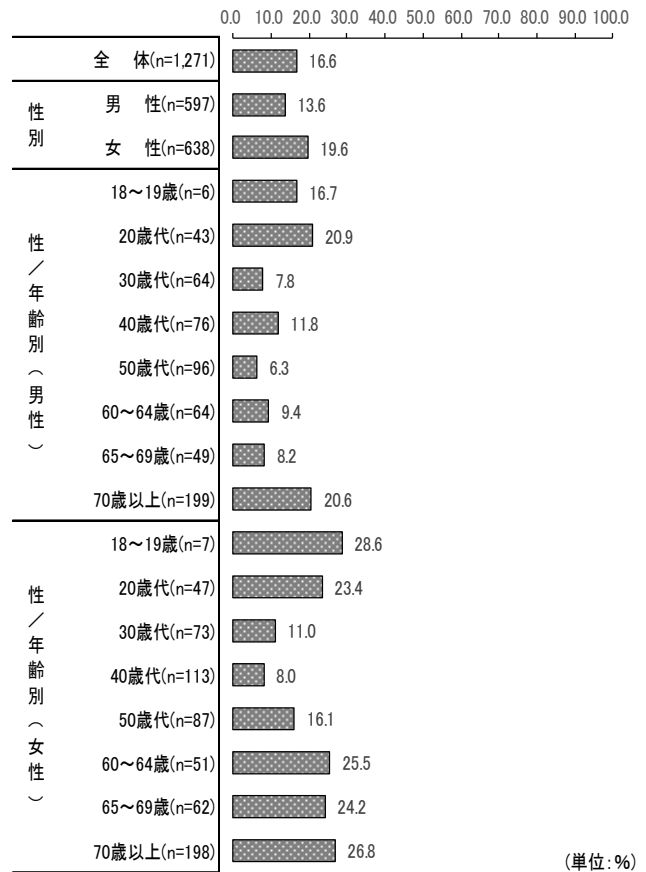
衣・食生活の充実



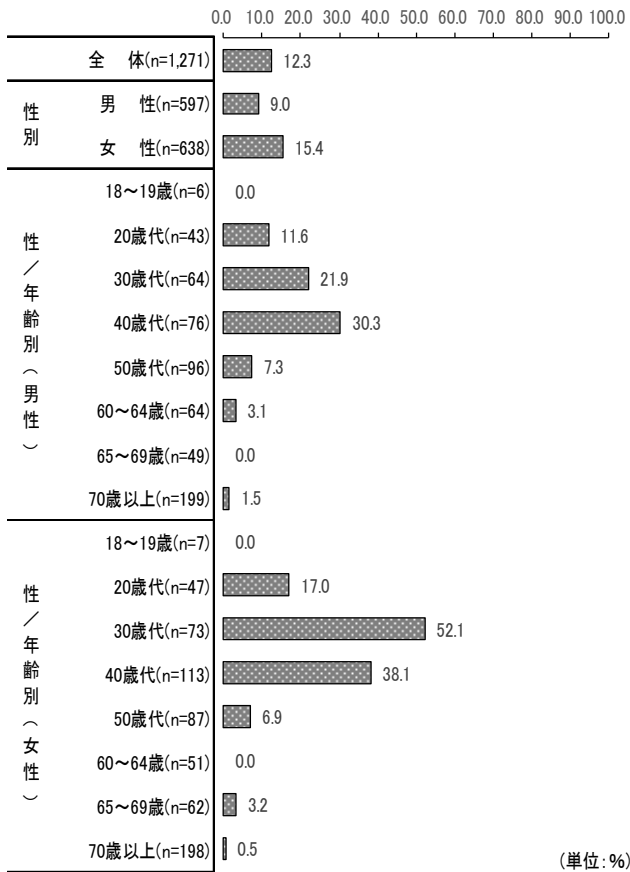
住生活の改善、充実



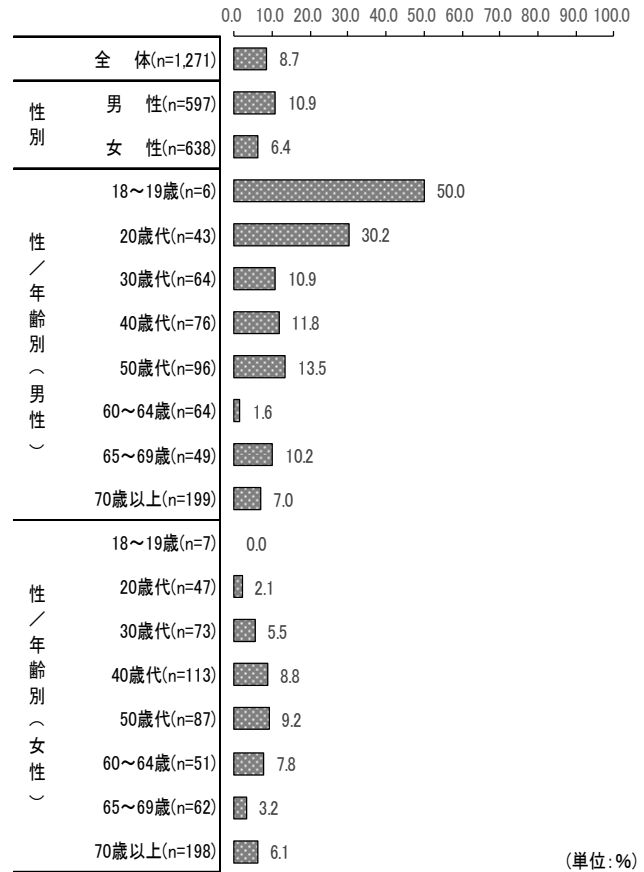
友人や知人との付き合い



子育てや子どもの教育



知識や教養

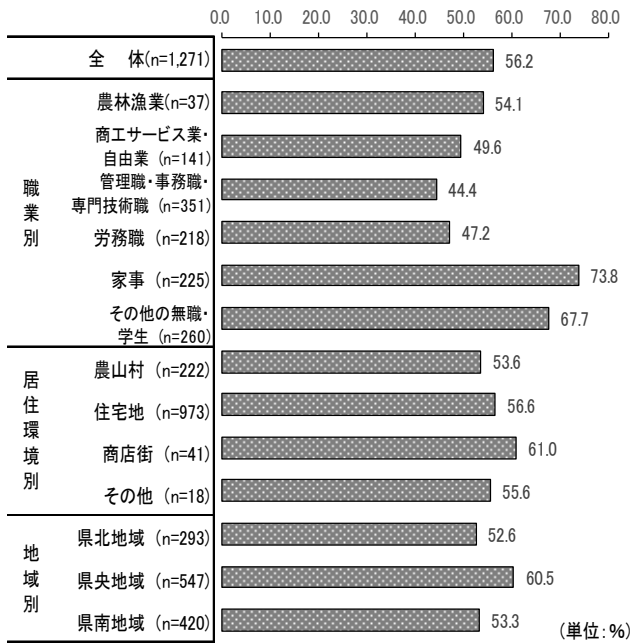


性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉35.8%が、〈女性〉23.2%より12.6ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。

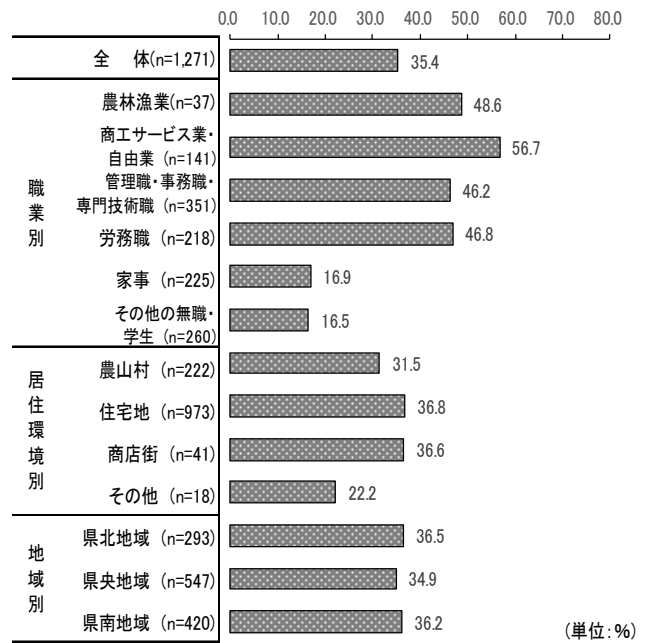
性/年齢別で見ると、「健康づくり」では〈男性70歳以上〉79.9%が最も高く、〈女性30歳代〉19.2%が低くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉65.1%が高く、〈女性70歳以上〉10.1%が最も低くなっている。「家族との団らん」では〈女性30歳代〉49.3%が最も高く、〈男性20歳代〉14.0%が低くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別] (上位10項目)

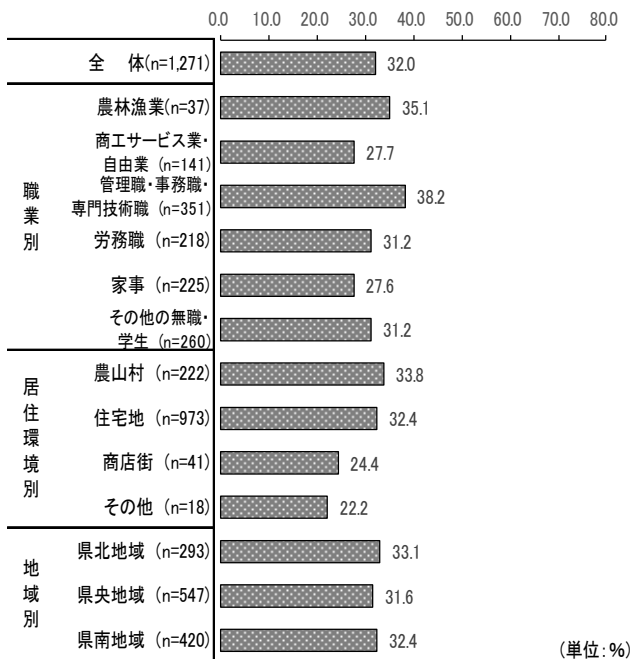
健康づくり



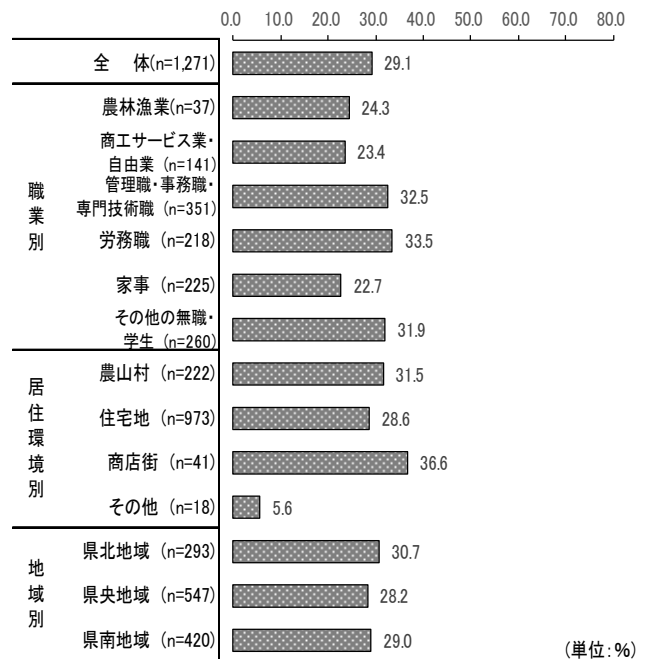
仕事(家事、学業)



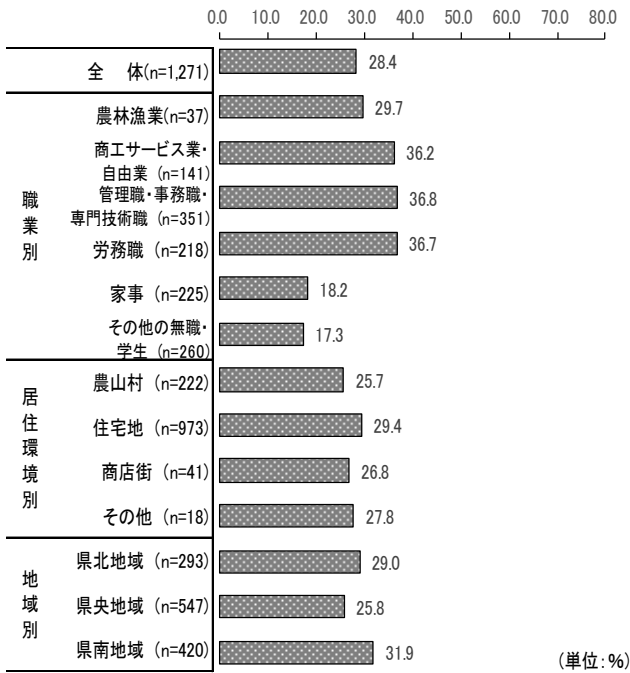
家族との団らん



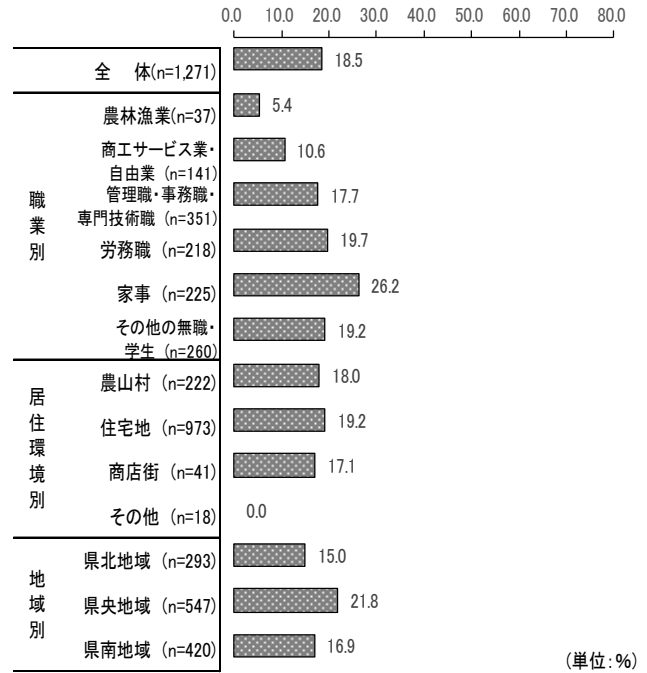
趣味やスポーツ



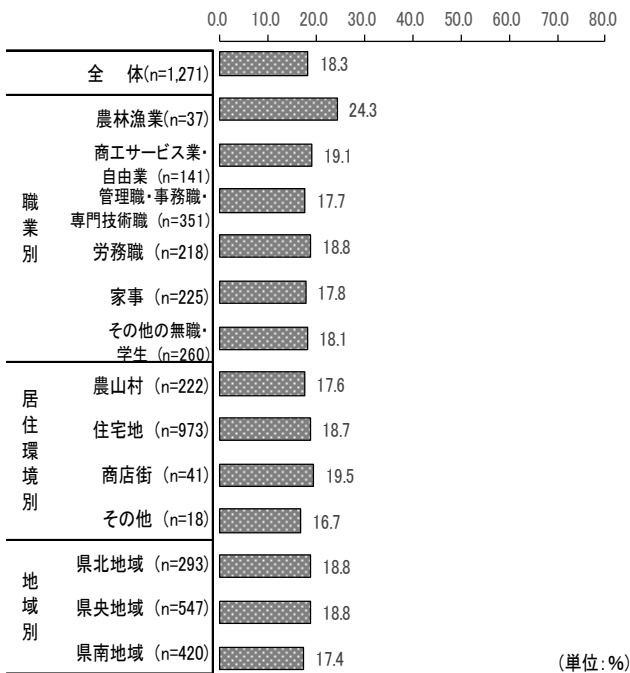
## 貯蓄



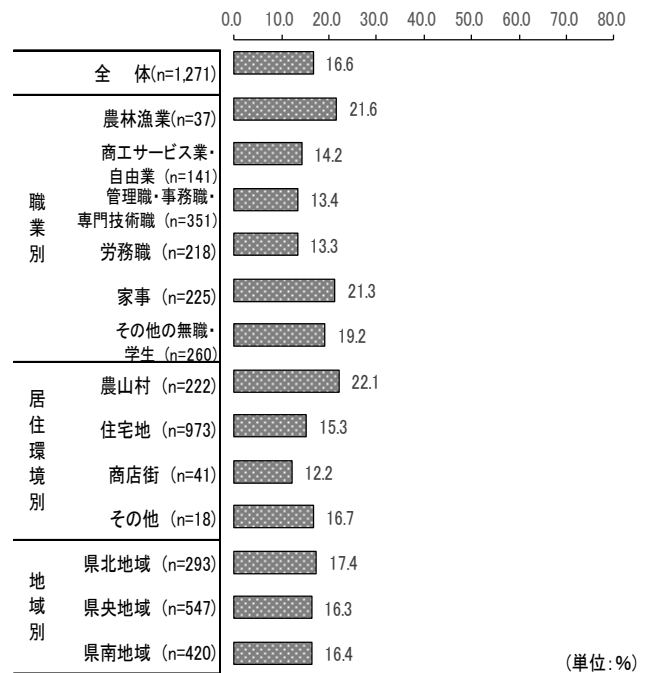
## 衣・食生活の充実

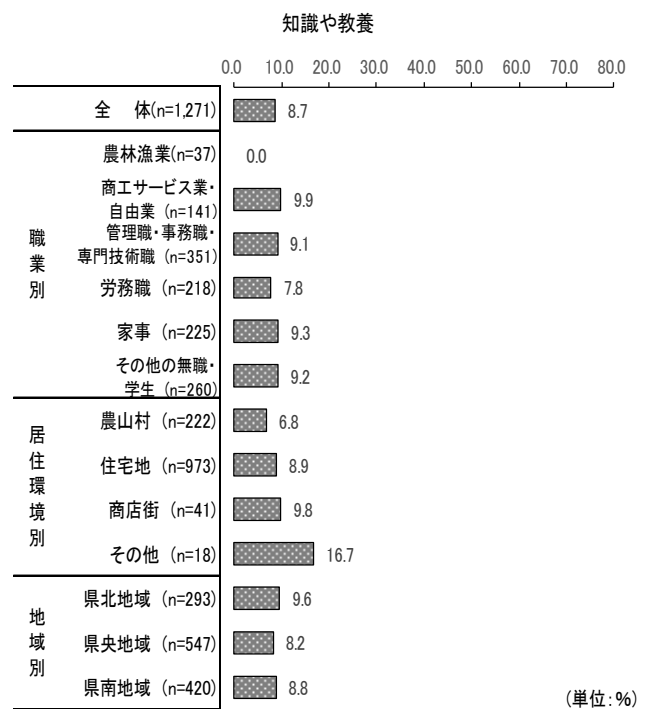
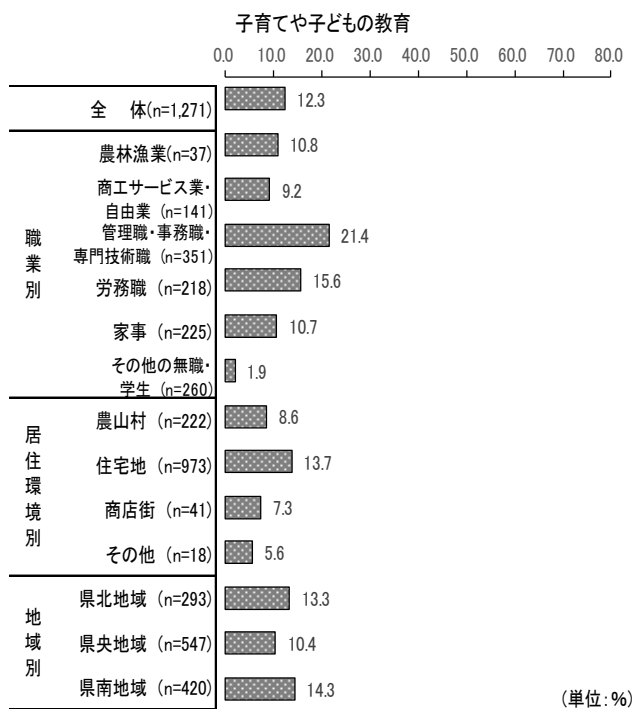


## 住生活の改善、充実



## 友人や知人との付き合い





職業別でみると、「健康づくり」では〈家事〉73.8%が最も高く、〈管理職・事務職・専門技術職〉44.4%が最も低くなっている。「仕事（家事、学業）」では〈商工サービス業・自由業〉56.7%が最も高く、〈その他の無職・学生〉16.5%が最も低くなっている。

居住環境別でみると、「健康づくり」では〈商店街〉61.0%が最も高く、その他の分類ではいずれも5割台となっている。「仕事（家事、学業）」では〈その他〉22.2%を除く分類では、いずれも3割台となっている。

地域別でみると、「健康づくり」では〈県央地域〉60.5%が最も高く、〈県北地域〉と〈県南地域〉ではともに5割台となっている。「仕事（家事、学業）」では、すべての分類で3割台となっている。